

派遣先所属 福島県商工労働部雇用労政課

氏 名 遠藤 有矢 (えんどう ゆうや)

派遣期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

## 1 派遣先業務の内容及び現況

派遣先の雇用労政課は、ワークライフバランスの推進や県内企業への就職支援、労働相談など、雇用と労働関係の幅広い業務を行う部署です。震災復興に係る業務もいまだ多く、課内には私のほか、東京都と奈良県からも職員が派遣されています。そんな雇用労政課で、私が現在担当しているのは「ふくしま産業復興雇用支援助成金（以下、「助成金」）」に係る業務です。

この助成金は、東日本大震災・原子力災害（以下、「震災」）からの復興を、雇用の面から支援するための制度です。国が制度設計や財政面の基礎部分を担当し、県が実際の事務手続きを行うという役割分担で実施されています。2つのメニューがあり、ひとつは「雇入費」です。震災当時、被災3県（福島、宮城、岩手）に居住または就労していて現在失業中の方を雇用した場合に、対象の労働者1人当たり3年間で最大225万円、1事業所につき最大2,000万円を助成するものです。もうひとつは「住宅支援費」です。雇用のため住宅手当を拡充させたり、住宅を借り上げたりした場合に、その経費の一部を、1事業所につき最大720万円助成するものです。どちらのメニューも助成は事業所に対して行います。

助成金運用のため、私と、福島県職員1名、東京都職員1名、専門員3名の計6名による専門チームが雇用労政課内に設置され、助成金に関する相談、申請の受付、書類審査、現地調査を日々行っています。

助成金の制度には複雑な部分があるため、多くの相談が寄せられます。相談者によって状況が異なるため、お話をよく伺い、細やかに対応することが特に求められます。私自身も、当初は制度がなかなか理解できず、また、労働基準法などの知識も必要になるため、勉強しなければならぬことが多く、四苦八苦しました。

現地調査では、福島県内の事業所を訪問しています。3年間の助成期間が終了した事業所を対象に、助成が問題なく行われたか、書類等を再確認するために行うもので、事業所の方と直接お話ができる良い機会です。震災当時の苦労についても話が及ぶことがあり、「震災により避難を余儀なくされ事務所が使えなくなってしまった」、「農産物が売れないため運送の仕事が無くなってしまった」、「膨大な数の復旧工事が発生したため、人手が足りず苦労した」など、貴重なお話を伺いました。また、「支給額が大きくありがたかった」「資金面を気にせず雇用ができたので助かった」といった言葉を聞くこともあり、助成金の効果を実感することもあります。

震災直後と比べると、助成金の申請件数は減少傾向ですが、今も年間250件程度の申請があり、依然として助成金による支援の必要性はあるものと考えられます。

## 2 福島県内被災地の復興状況

現在、東日本大震災による強震や津波の被害により、生活に不便するようなことはあまりありません。強震により壊れた建物や道路、崩れた崖などは元に戻り、津波が襲った沿岸部には堤防や防災緑地が再整備され、海を眺める観光スポットになっているところもあります。

また、原子力災害からの復興も、ゆっくりではありますが確実に進んでいます。避難指示等が出されている区域は、一時、県の面積の約12%を占めていましたが、現在は、約2.4%にまで減少しました。いまだに立ち入りが制限されている「帰還困難区域」も、一部が「特定復興再生拠点区域」として、強力に除染やインフラ復旧が進められることになり、今後、徐々に解除が進む予定です。避難先から原子力災害被災地に戻ってきた住民や企業もあり、国や自治体の支援制度を活用いただきながら、復興に向けて邁進しているところです。

しかし、原発の廃炉作業や、「県外処分」が法律で定められた除染土の最終処分など、達成には数十年という歳月がかかる課題も残されており、道のりは長く険しいものです。依然として「風評」の影響を感じている事業者も多く、さらに、震災から10年が経ったことで、「風化」を心配する声も報道などで耳にします。10年で元に戻ったことと戻っていないこと、明るい未来がみえたことと見ていないこと、これらを見つめなおすことが復興支援の入口だと感じます。

さて、震災から10年を機に、「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」という福島県の新スローガンが策定されました。以前のスローガンは、「ふくしまから はじめよう。」でした。『「はじめよう」から、『実現する』へ』。着実に進む復興を象徴するようなスローガンです。

このスローガンをPRするため、公用車1台がラッピングカーになりました。この車は「ふくしま実現するカー」と呼ばれていて、首都圏でも放映された「ふくしまプライド。」のCMでは、「TOKIO」と共演もしています。私も出張時に車を借りて運転しました。県庁敷地から出た途端に、沿道からかなり注目を集めましたので、新スローガンのPRに協力することができたのではないかと思います。

## 3 派遣中に感じたこと

私の令和3年度の目標は、「福島県内59市町村を全て訪れる」です。福島県の面積は、1都3県の合計面積よりも広く、ひとつの地域にいただけでは、なかなか県全体を知ることができません。そこで、福島県はどのような県なのか、休日に現地を訪れて調べています。

福島県内を巡っていると、「福島力」を実感します。ガイドブックに掲載されるような観光スポットや温泉はもちろん、豊富でおいしい農林水産物や、日本酒、工芸品、

ご当地グルメなど、どこの地域も興味を惹かれるものでいっぱいです。また、震災による県外避難を乗り越えて伝統を継承していたり、「震災で落ち込んだ地域を盛り上げよう」と開発された商品があったり、復興への熱い思いにも満ちています。

魅力とやる気で溢れる福島県を、埼玉県として全力で支援できるよう、引き続き、精進して参ります。

(参考リンク)

新スローガン「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」の詳細は、以下のサイトから御覧ください。PRグッズの無償配布も行っています(令和3年12月時点)。

**福島県特設サイト「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」**

<https://jitsugensuru-fukushima.jp/>

「TOKIO」と「ふくしま実現するカー」が登場するCMは、以下のサイトから御覧ください。福島県産品の情報も満載です。

**福島県特設サイト「ふくしまプライド。」**

<https://fukushima-pride.com/>



【 「ふくしま実現するカー」と筆者 】

「ふくしま実現するカー」以外にも、缶バッジやのぼり、法被など様々なPRツールがあります。



【 福島盆地の桃（あかつき） 】

直売所で手に入るいわゆる「規格外品」です。1箱12個入りで800円でした。



【 赤べこ 】

福島県の伝統的工芸品です。厄除けのお守りとしても重宝されています。



【 あぶくま洞 】

見学路は全長約600m。たくさんの鍾乳石を冒険気分で見ることができます。

以 上